

パブリックコメントの結果について

1. 実施期間 令和5年12月14日(木)～令和6年1月12日(金)
2. 実施結果 3人(17件)

※ ご意見等につきましてはとりまとめの便宜上、適宜要約させていただいております。

※ また、他の政策や事業等に係るご意見などにつきましては、参考意見としてお伺いさせていただきます。

No	ご意見・ご提案の概要	ご意見に対する市の考え方
【「将来人口」に対するご意見】		
1	<p>P. 13、22</p> <p>将来希望人口 2030年に49千人になっているが、既に2023年に49千人になっており、社人研推計がより現実的な値となっている。本P. 70、86その他希望人口計画においては、特段の裏付けのある施策は見当たらず、希望的観測はすでに破綻していると言わざるを得ない。実現可能なように、社人研推計をわずかに上回る計画に変更すべきではないか。人口の減少に見合った計画にして、何をすべきか目標に掲げたらよいのではないか。直近は縮小均衡が必ずしも悪いことばかりであることも考慮すべきではないか。出生率アップについての施策は早く具体的に重点目標とすべきだとは思う。</p>	<p>人口ビジョンにつきましては、国立社会保障・人口問題研究所の推計や国・県のビジョン、本計画の各施策の成果等を踏まえ、次期総合計画策定時に見直すこととしております。ご指摘のとおり、人口減少は進行していきますので、いただいたご意見も参考に検討してまいります。</p>
【「本市の現状」に対するご意見】		
2	<p>P. 33</p> <p>子供から高齢者まですべての人々が活躍できる「荒尾市ウェルネス拠点施設」とあるが、ここには成人・高齢者などが集える施設（例えばコミュニティセンター等）はなく、SDGsに言う全ての人々となる施設になっていない。特に大階</p>	<p>荒尾市ウェルネス拠点施設の整備は、令和5年度に基本設計、令和6年度に実施（詳細）設計及び第1期工事を行います。公表している荒尾市ウェルネス拠点施設の鳥瞰図は事業者提案時のイメージ図であり、設計が完了したものではありません。詳細については基本設計及び実施設計</p>

	<p>段はユニバーサルデザインにそっておらず、危険性が内在するなど、とても要求仕様書でいう「荒尾市のシンボルとして認識されるデザイン」とは合致しない。</p> <p>基本設計でこの部分をどのように反映しているのか、公表すべきである。</p>	<p>において検討をいたします。</p> <p>また、ユニバーサルデザインについては、要求水準書において、遵守すべき法制度等として、国や県の基準、ガイドラインを示しておりますし、要求水準書の、荒尾市ウェルネス拠点施設（仮称）の施設整備概要（8）配慮事項</p> <p>1）ユニバーサルデザインに、高齢者や障がい者、子育て世代や妊婦を含む全ての利用者にとって、安全・安心かつ快適に利用できる公共施設として整備することとしております。</p> <p>基本設計では、施設の配置などを大まかに決め、詳細な整備の内容については、実施設計で検討することとなりますので、それらをモニタリングする中で、要求水準が守られているかを確認してまいります。</p>
3	<p>P. 34</p> <p>「荒尾市立有明医療センターをはじめ・・・」とあるが、現実は緑ヶ丘集中型であって、人口減少、高齢化、移住、教育環境・レベル向上の要望にどう対処するのか、なるほどと言える明確な方針が示されていない。</p>	<p>ご指摘のページにつきましては、本市の地域特性に関する内容を記載しております。</p> <p>P. 82 に記載のとおり、本市はコンパクトシティ化を推進しており、今後は緑ヶ丘地区周辺だけでなく、荒尾駅周辺でも都市機能の集約を図っていくこととしております。</p> <p>また、各課題解決に向けては、重点戦略の基本施策において、それぞれ取り組んでいるところでございます。人口減少に伴い、今後も様々な課題が出てまいりますので、いただいたご意見を参考に引き続き検討してまいります。</p>
4	<p>P. 34</p> <p>「豊富な地域資源・・・」とあるが、ほとんどが旧来の項目ばかり羅列しているだけで、新しい取り組み項目もなく、ここが重点だと言えるものを示されていない。発散的な取り組みより、選択と集中を実施して、重点施策を構築する文章に改めるべきではないか。</p>	<p>ご指摘のページにつきましては、本市の地域特性に関する内容を記載しております。地域資源を生かした取り組みにつきましては、重点戦略3の産業分野、重点戦略4の観光分野における施策におきまして取り組んでいるところであります。新しい取り組みにおきましては、いただいたご意見を参考に引き続き検討してまいります。</p>

【「新・第5次荒尾市総合計画の検証」に対するご意見】

<p>5</p>	<p>P. 37</p> <p>「訪日外国人の取り組み・・・」について、外国人来訪者の占める割合は全体の1%程度しかない。これを数倍にしても経済効果は微々たるものであり、これを重要な課題とすることにどれくらいの意味があるだろうか。除外してもよいのではないか。第一、道の駅は、ゲートウェイ型、インバウンド型として位置づけしていたが、今回の公募結果を見ても何も触れられていないことからその意義は極めて薄く削除してもよいのではないか。このデータが2017と古すぎるし、後に出てくるデータは2018が根拠となっており整合性が無い。</p>	<p>P. 36～49 につきましては、「新・第5次荒尾市総合計画」の検証について記載しております。こちらは第6次荒尾市総合計画を策定する際に、平成30年度末時点の実績ベースで検証し、検証結果から見えてきた課題や見直しのポイント等について整理しているもので、今回の改訂版では変更しておりません。</p> <p>次期総合計画を策定する際には、最新のデータに基づき作成し、第6次荒尾市総合計画-改訂版-を検証した上で課題等を整理し、新たな施策を検討してまいります。</p>
<p>6</p>	<p>P. 38、P. 40</p> <p>「働く場所・教育環境（教育の質）」これは最も重要な課題ではないか、「求められる・整備する必要がある」の記述ではまるで他力本願のような書き方であり、訴求力は全くない。重点項目や具体的展開を示してこそ市職員の提案力が示されるのではないか。現状では他人ごとにししか聞こえない。P. 46とも密接に関連している。</p>	
<p>7</p>	<p>P. 44</p> <p>「持続可能で利便性の高い公共交通体系」について、市職員等で近距離・遠距離通勤者がどれだけ公共交通機関を利用しているか調査すれば実態がわかるのではないか。率先垂範まず市職員が「ノーマイカーデー」を掲げて実施すればよいのではないか。</p>	
<p>8</p>	<p>P. 49</p> <p>「検証結果」について、見直しのポイントの全てが、データや要因分析であり、具体的にどうすると言うことの記載は</p>	

	なく絵に描いた餅の類になっている。総合計画の体をなしていない。プランの前段階までで、本当のPDCAサイクルにも到達していない。	
【「将来像」に対するご意見】		
9	<p>P. 52</p> <p>今回、将来像に「～「暮らしたいまち 日本一」を目指して～」が追加されているが、そこに至った背景や理由の記載がないため、唐突感があり、説得力にも欠けると感じる。</p> <p>P. 52 中段「また、近年は、～」の部分は、P. 33「2. 荒尾市における近年の動き」に記載すべき内容であると考えられ、本頁では、それをどのように踏まえてどのような将来像を設定するのか、についての記述が必要だと考える。それが抜けている一方で、「デジタル技術の活用」のみが謳われているのは疑問が残るし、そもそも「暮らしやすさ 日本一」を目指す所以は人口減少抑制であるはずであり、特に近年、出生数の減少が著しい中で、本計画において「少子化対策」に重点的に取り組むのであれば、そのような記載が本頁に一切ないことに違和感をおぼえる。</p>	<p>P. 52 の近年のデジタル技術を活用した本市の取組におきましては、ご指摘のとおり、P. 33「2. 荒尾市における近年の動き」に記載いたします。</p> <p>将来像の「暮らしたいまち日本一」の背景としましては、新型コロナウイルスにより暮らし方や働き方など社会が大きく変化してきていることをチャンスと捉え、“小さなまち”荒尾市が“大きな挑戦”をしていきたいという考えがあります。</p> <p>ご指摘いただいた内容を参考に、今後は少子化対策に重点を置くとともに、市民や出身者などが、「荒尾に住んで良かった」「荒尾で暮らしてみたい」と思える魅力あるまちづくりを進めるために、将来像を再構築する旨について記載いたします。</p>
10	<p>P. 52</p> <p>「県内初・日本初」についても重点項目・具体策が無くて、説得力は全く感じられない。</p>	
【「横断的目標」に対するご意見】		
11	<p>P. 55</p> <p>今回なぜ「横断的目標」を置くのか、その背景や意義について記載がないため、疑問が残る。やはりP. 52 において、少子化の進展に対する現状や危機感（現状については今回実施された各種調査結果や統計データなどをまとめて別項で詳しく記述されてもよいレベルではないかと考える）を十分に</p>	<p>横断的目標を設定する理由について、P. 55「4. 重点戦略と推進指針」に近年の本市の少子化の状況に鑑み、あらお未来プロジェクトにおける少子化対策の強化を図るための横断的な目標として設置する旨を記載いたします。また、横断的目標の位置付けや、設定することで期待できることについても記載いたします。</p>

	記載しておく必要があると考える。	
1 2	<p>P. 62</p> <p>第一段落「今や少子化は～」については、P. 31「1. 我が国を取りまく社会情勢」の中に追記された方がよいと考える。その後の展開はP. 33「2. 荒尾市における近年の動き」に記載された方が分かりやすく、本頁に記載されている「子どももみんなも笑顔でいられるまちをつくる」はむしろ将来像「暮らしやすさ 日本一」を補足するものとして位置付けた方が、説得力が上がるのではないかと考える。加えて、本頁には「デジタル技術の活用」に関する記述がなく、将来像との整合性について、疑問が残る。</p>	<p>P. 62 の全国的な少子化の現状については、ご指摘のとおり、P. 31「1. 我が国を取りまく社会情勢」に、その後の展開はP. 33「2. 荒尾市における近年の動き」に記載いたします。</p> <p>また、将来像との関連はP. 55の「将来像」のところで記載し、デジタル技術の活用については、少子化対策に関連する事業の中で取り組んでいきます。</p>
1 3	<p>P. 62-P. 63</p> <p>本頁では、横断的目標として「ライフステージごとに必要な対策を整理・パッケージ化して取り組む」という旨の記載があれば十分で、「具体的な施策」までは必要ないのではないかと考える。理由としては、①内容についてP. 64以降の重点戦略の柱ごとの取組内容と重複するものもあること、②KPI が設定されておらず、進捗管理において他の「具体的な施策」と運用に差が出てくること懸念されること、③取組内容に曖昧な表現のものも散見され、実施主体（所管部署）及び責任の所在が明確でないこと、を挙げる。仮に現在の建付けを踏襲とした場合、現在パブリックコメントを募集されている「第三次荒尾市健康増進計画(素案)」のP. 85以降にある「5重点施策」と同様のまとめ方をされると上記課題の解決も図れるのではないかと考える。</p>	<p>横断的目標は、少子化については人口減少の抑制に繋げるためにあらゆる分野の視点から少子化対策を意識した事業を検討・実施していくものであり、ご指摘のとおり、「具体的な施策」とすると、重点戦略の取組内容と同等の取扱いと受け取れるため、「具体的な施策」から「少子化対策強化項目」と変更いたします。</p> <p>また、少子化対策強化項目の根拠となる座談会でのご意見について記載いたします。</p>
【「施策内容」に対するご意見】		
1 4	<p>P. 70</p> <p>将来病気になるリスクを予測するとあるが、大金をかけて</p>	<p>計画本文中に「将来病気になるリスクを予測する検査等」と記載しておりますが、ハイリスクアプローチとして実施す</p>

	<p>わずかな市民を対象にした計画は優れた政策とは言えない。定期健診等に取り入れて効率化すべきではないか。</p>	<p>る将来病気になるリスクを予測する「フォーネズビジュアル検査」以外にも、ポピュレーションアプローチとして国保の特定健診受診者を対象にする「健診結果予測シミュレーション」や誰でも使える「健康増進サービス」もあります。</p> <p>ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ、それぞれの健康増進対策を組み合わせる取り組みが厚生労働省からも推奨されており、本市の取組も同様です。</p>
<p>15</p>	<p>P.72 屋内温水プールの整備（新規） KPI の例 新規に整備するプールの利用者 KPI の例 水泳を週1回以上実施する人の割合 荒尾市で子育てをしたくない理由の筆頭は教育環境の悪さである(p.41)。これは教育機関や塾の存在によるところもあるかと思うが、習い事に関するインフラの弱さも影響していると考えられる。</p> <p>例えば、習い事に関する全国調査では、学習塾を除けば水泳が一番であり、小学校低学年で約3割が習い事として選択している。習い事だけで引っ越しが決まるわけではないが、荒尾市には習い事としてカウントできるような水泳施設（屋内プール）がないため、子育て世帯の3割からは明示的・潜在的に子育て拠点としての候補から外されている可能性がある。</p> <p>また、荒尾市が今後力を入れていくべき政策として子育て環境に引き続きあげられているのが、「高齢者、障がい者などが、生きがいを持ってらせるまち」である。水泳は生涯スポーツやパラスポーツとして認識されており、こどもの教育環境の整備と相まって、荒尾市の進むべき方向にマッチするスポーツである。</p>	<p>ご意見のとおり、水泳は、習い事として人気があり、世代を問わず健康づくりや生きがいづくりにつながるスポーツであります。また、天候に左右されない屋内プールは、まちづくりアンケート等でもご要望いただくことがあり、ニーズがあることについては認識しております。</p> <p>市民プールを含む市全体の公共施設についての維持管理等に関する全般的な方針については、「荒尾市公共施設等総合管理計画」を策定しており、スポーツ施設については集約化や複合化を含めた更新を検討することとしております。</p> <p>今回策定いたします改訂版では、国の総合戦略を基にしたデジタルの活用に関すること、少子化対策に関することの追記や時点修正、目標値等の中間見直しを行うこととしております。いただいたご意見につきましては、次期総合計画の策定に向け、改めて施策や事業を検討する際に参考にさせていただきます。</p>

	<p>幼少期、学童期、成人期、妊娠期、高齢期など、人生の各シーンにおいて水泳は健康の増進に効果を発揮する生涯スポーツであり、これを通年実施できる施設（競泳用プール及び多目的小プール）の早急な整備が求められる。</p> <p>維持費については、公的教育機関のプールの一部集約や民との連携といった運営の改善や、可燃ごみの焼却熱や太陽光・熱の利用によるゼロカーボンの取り組みや、雨水利用による持続性の向上、そして災害時の生活用水供給拠点といった取り組みにより、価値の付加とコストの低減を両立できるのではないか。</p>	
<p>【「推進体制」に対するご意見】</p>		
<p>1 6</p>	<p>P. 86</p> <p>DX計画について、現在は市役所内部のDX化が主体で、市民生活を豊かにするような計画はなされていないようだ。よその自治体とは真逆の取り組みとなっていないか。公共施設の管理が外部委託となり8名程度の人員を振り当てるとしていたがどうなっているのだろうか。市職員のスキルはどの程度に達したか公表してほしい。展開には外部技術者によるべき面もあるかと思うが、職員のスキルがあつてこそ、市民に届くDXとなるのではないか。市民対象の具体的実施計画を本計画に盛り込むべきだと考えられる。</p>	<p>荒尾市DX推進計画におきましては、暮らし・産業・行政のDXを進めることで、総合計画の実現を図る計画となっております。また、アクションプランについても策定しており、毎年度見直しを行っております。</p>
<p>【その他のご意見】</p>		
<p>1 7</p>	<p>基本計画は過去から実施されているが、人口減少にしろ、何にしろ目標を達成できていない項目が多く、本計画は機能不全であるかのような結果となり、計画そのものが無理であったことを証明していると推測できる。</p> <p>「こうあってほしい」と希望的観測項目を羅列するだけでは、何の解決もしない。取捨選択、集中項目に絞って計画を</p>	<p>総合計画は、目指す市の将来像を示すとともに、その実現に向けてまちづくりを進めていく上での指針となる計画であり、各施策の目標達成に向け、毎年「総合計画審議会」による進捗管理を行っております。目標達成できていない取り組みにつきましては、次年度以降の事業の見直し等を行っているところです。引き続き、将来像の実現のため取り組んで</p>

	実施することが望ましい。	まいります。
--	--------------	--------